

2026 年度 公益社団法人日本地すべり学会 事業計画

1. 総務部

(1) 行事

- ・ 通常社員総会の開催：2026 年 6 月 12 日（ハイブリット開催）
- ・ 理事会の開催：年 5 回の予定
 - 第 1 回 2026 年 5 月 8 日
 - 第 2 回 2026 年 6 月 12 日
 - 第 3 回 2026 年 9 月、第 4 回 2026 年 11 月、第 5 回 2027 年 3 月を予定
- ・ 代議員選挙の運営：2026 年 12 月～2027 年 3 月
- ・ 次年度社員総会の準備：2027 年 6 月を予定
- ・ 学会活性化施策の企画調整（各支部・各部調整、会議）

(2) 庶務

- ・ 執行部会への参加と審議、電磁記録による理事会对応
- ・ 理事会、執行部会の議事資料および議事録の作成
- ・ 定款・規則・細則の見直し、整備
- ・ 選挙管理委員会、表彰委員会等の支援
- ・ 学会（各部、支部）アウトリーチの補助、群馬大会の補助
- ・ 学会長の特命事項

(3) 財務

- ・ 決算書および予算書の作成

(4) 広報

- ・ HP 内容の更新および情報の充実（HP 対応のワーキング・グループを設置予定）
- ・ 会員管理システムの維持（メーリングリスト管理）と情報発信の促進
- ・ 対外活動に係る調整事項（事務局と協力）

(5) 部会

- ・ 年 2 回程度の開催を予定（WEB 会議）

2. 事業計画部

(1) 2026 年度シンポジウムの開催

- ・ 日 時：2026 年 6 月 12 日 11:00～16:50（予定）
- ・ 会 場：TKP ガーデンシティ渋谷（ハイブリッド開催を予定）
- ・ テーマ：「地形の見方、考え方 ― 地形判読技術の基礎から最先端技術まで」（仮）

(2) 第 65 回研究発表会及び現地見学会（群馬県高崎市）の開催

① 県民講演会

- ・ 日 時：2026 年 9 月 15 日
- ・ 会 場：G メッセ群馬会議施設

② 開会式・特別講演・研究発表会

- ・ 日 時：2025 年 9 月 16 日～9 月 17 日
- ・ 会 場：G メッセ群馬会議施設

③意見交換会

- ・日 時：2025 年 9 月 16 日
- ・会 場：エテルナ高崎

⑦ 現地見学会

- ・日 時：2025 年 9 月 18 日
- ・見学地：群馬県内で 3 コースを計画

(3) 地すべり・土石流災害調査報告会

- ・研究調査部と共催（予定）

(4) 部会

- ・年間 6 回(偶数月)の開催を予定

3. 編集出版部

(1) 編集委員会

①編集委員会の開催(12 回)

②日本地すべり学会誌 Vol. 63(3)～Vol. 64(2)の刊行(6 回)

特集号の企画：

- ・ 63(4)「火山・火山噴出物に関連した土砂災害とその対策」
- ・ 63(6)「シンポジウム連携特集号（地球温暖化に直面する寒冷地の斜面変動研究）」
- ・ 64(2)「海外の地すべり」

③日本地すべり学会誌電子ジャーナル(J-stage)の刊行

- ・会員は全号閲覧可能・非会員は 1 年以前閲覧可能

④技術報告賞および査読者賞の候補者選定

⑤ML による学会誌最新号案内・特集号原稿募集案内の配信

⑥検討中の事項

- ・特集号の企画
- ・シリーズ(「地すべりキーワード 101」、「地すべり探訪」)の継続、講座・シリーズの企画、フォーラムの充実
- ・投稿を促進する方策
- ・ジャーナル投稿・審査システム「Editorial Manager」のカスタマイズ

(2) 出版委員会

①委員会の開催(定例 4～5 月、必要に応じて適宜開催)

- ・出版・販売計画の作成
- ・出版・販売促進活動の実施

②検討事項

- ・「LANDSLIDES IN JAPAN」の出版に向けた作業支援（英文校正及び版組編集）

③出版企画の審査（必要な場合）

4. 研究調査部

(1) 研究助成

- ・昨年度からの継続課題は 1 件である。

地下水排除工のスライム付着防止・除去に資する「黒色物質」の作用メカニズム、3 年
目、代表：渡部直喜

- ・今年度は新規課題を1件募集する。

(2) 研究委員会

- ・以下の4つの研究委員会の活動を継続して行う。

A：すべり面および移動体の物質科学・構造研究委員会、2019～2027年、代表：山崎新太郎

B：すべり面に作用する地下水ポテンシャルに関する研究委員会、2024～2027年、代表：渡邊修

C：計測変位に基づく地すべり防止工事計画論研究委員会、2024～2027年、代表：萬徳昌昭

D：多次元方向の計測変位に基づく斜面崩壊発生予測手法研究委員会、2025～2028年、代表：佐藤渉

なお、上記委員会においては必要に応じて委員の追加公募を行う。

- ・今年度も新規の研究委員会テーマ及び委員の公募を行う。

(3) 地すべり・土石流災害調査報告会

- ・今年度も例年実施している災害調査報告会を11月～12月に開催する。

(4) 研究調査部会

- ・研究発表会に合わせて部会を開催する。また必要に応じてメール審議、ないしはWebによる部会を開催する。

5. 国際部

(1) ICL への各種協力

① ICL/IPL 運営会議への参加

② KLC2020 の推進（オープンアクセスブックシリーズ[Progress in Landslide Research and Technology]への投稿推進、大会時のセッション開催等）

③ その他の協力

(2) 2026 年度会合(全国大会時を予定)

2026 年 9 月 群馬大会

(3) 海外研究者の招聘講演

- ・海外研究者等による講演会（遠隔または対面により開催）

(4) 学会誌「フォーラム」へ Landslides 誌掲載論文の紹介記事投稿

(5) 全国大会時の英語セッション開催

(6) その他の継続審議課題の検討

- ・新たな国際会議の企画、運営支援の可能性
- ・日本地すべり学会の出版物の ICL 経由の宣伝の可能性

6. 表彰委員会

(1) 学会賞(論文賞・技術報告賞・査読者賞・研究奨励賞・谷口賞・国際賞及びその他の賞)の審査

- ・表彰委員会にて審査(推薦締め切りは2026年3月1日)
- ・表彰式(2026年9月16日、群馬大会会場にて実施)

(2) 名誉会員候補の検討

7. 解説委員会

(1) 解説委員会の開催

9月の研究発表会に合わせて委員会を開催する。また、必要に応じてメール審査による委員会を開催する。

(2) マスコミ対応

災害等におけるマスメディアからの取材依頼等に個別に対応する。

8. 選挙管理委員会

(1) 役員選挙

・2026年1～2月に実施した役員選挙の結果を社員総会に報告

(2) 代議員選挙

・2027年2～3月に実施する代議員選挙の運営・管理

9. 能登半島地震対応委員会

(1) 本学会における能登半島地震に起因する土砂災害に関連する研究を推進し、またそれらの研究活動を総括する。活動期間は1年延長し、2027年3月までを予定。

(2) 本委員会の下に具体的な研究活動を実施する5つの部会を設置して、研究を推進すると共に、学会内の部や支部等と連携して、報告会や報告書の作成を行う。

(3) 活動予定

- ・委員会の開催（3回予定）
- ・具体的な研究活動を実施する部会の開催
- ・報告会の開催（令和7年活動報告、最終成果報告）
- ・中間的な成果の学会Web等での報告
- ・最終報告書の作成

10. 北海道支部

- (1) 支部総会：2026年4月24日、北海道立道民活動センター かでの2・7（札幌市）で開催予定
- (2) 研究発表会：同上
- (3) 現地検討会：9月頃の開催を予定(場所未定)
- (4) 第1回支部運営委員会：6～7月の開催を予定
- (5) 技術講習会：6～8月の開催を予定、若手会とのコラボ
- (6) 第2回支部運営委員会：1～2月の開催を予定
- (7) 広報活動：支部ホームページ運営、通年
- (8) シニア会：2回の開催を予定(時期未定)、若手会とのコラボ
- (9) 若手会：2回の開催を予定(時期未定)、技術講習会・シニア会とのコラボ
- (10) 社会貢献活動等：講師派遣、報道対応、災害調査、随時
- (11) 他学協会との交流活動
北海道地すべり学会、応用地質学会北海道支部、

1 1. 東北支部

(1) 支部事業

① 2026 年度東北支部総会及び意見交換会

- ・ 日 時：2026 年 5 月 22 日
- ・ 場 所：エルパーク仙台 セミナーホール 1
総会 14：00～14：45 講演会 15：00～17：00 意見交換会 17：45～19：45

② 講演会及び研究発表会

- ・ 地すべり調査、研究に関連する講演、支部会員の研究成果の発表の場として開催予定
- ・ 講演会：第 1 回 2026 年 5 月 22 日 第 2 回 7 月下旬以降

③ 「斜面変動研究ワーキング」

- ・ 支部若手～中堅会員を対象とした研究、情報交換の場となる勉強会グループを募集し開催し、成果は支部内（研究発表会、HP 等）で発信・共有する予定
- ・ 研究グループごとにテーマに沿って年間に複数回実施予定

④ 若手研修会

- ・ 若手育成事業を活用し、次世代の若手技術者への技術伝承と人脈形成を目的に開催
- ・ 「斜面防災危険度評価ハンドブック」をテキストにした地形判読演習を含む研修、及び地すべり地での現地研修会（1 泊 2 日）と事前のオンライン研修を予定
- ・ 若手技術者を優先し定員 20～30 名規模を想定し、2026 年 8 月で調整

⑤ 地すべり現地検討会

- ・ 日 時：2026 年 9 月下旬～10 月上旬
- ・ 場 所：青森県（予定）

(2) 広報・会勢拡大活動

① 支部だより第 37 号の発行(2026 年 12 月予定)

- ・ 支部会員、協賛団体への学会活動の情報提供、支部行事、委員会活動の報告

② 支部活動などの情報発信

- ・ 支部会員リスト利用した各種の事業開催案内と参加募集、事業報告
- ・ 支部ホームページにおける行事の開催報告など

③ 会勢拡大活動（アウトリーチ連絡会・会員数対策連絡会と連携）

- ・ 講師派遣や市民向け勉強会などを通じた支部事業の宣伝活動
→学校や自治体の防災教育、技術研修会への講師派遣

1 2. 新潟支部

(1) 2026 年度支部総会，シンポジウム

- ・ 2026 年 5 月実施予定（会場未定）

(2) 2026 年度地すべり現地検討会（日本応用地質学会北陸支部と共催）

- ・ 2026 年 10 月～11 月頃を予定（開催地未定）

(3) 新潟県地すべり災害記録 CD 改訂版出版

- ・ 2027 年 1 月作業開始、2027 年 5 月出版

(4) 若手対策事業

- ・ 学生会員を対象とする公募型研究助成の実施
- ・ 研究成果報告会の実施（5月のシンポジウムと連携）
- (5) 関連団体との連携
 - ・ 新潟県地すべり対策研究会(事務局：新潟県砂防課)への参加
 - ・ 日本応用地質学会北陸支部行事の相互共催
- (6) 幹事会
 - ・ 支部幹事会を2ヶ月に1回程度の割合で開催（主にオンライン）
- (7) 新潟大会準備会
 - ・ 支部幹事会と連携し、実行委員会設置まで適宜開催（主にオンライン）

1 3. 関東支部

- (1) 支部総会：2026年5月1日
（日比谷図書文化館地下1階大ホール(東京都)）
- (2) 関東支部シンポジウム：2026年5月1日
（日比谷図書文化館地下1階大ホール(東京都)）
- (3) 意見交換会：2026年5月1日
- (4) 第65回（2026年度）研究発表会および現地見学会への対応
- (5) 運営委員会・幹事会等
- ① 運営委員会
第1回 2026年4月、第2回 2026年12月
- ② 幹事会
第1回 2026年4月、第2回 2026年6月、第3回 2026年9月
第4回 2026年12月、第5回 2027年3月
- (6) 災害調査
 - ・ 災害発生状況に応じて本部と連携して適宜実施

1 4. 中部支部

- (1) 支部運営委員会：2026年4月17日 長野市
- (2) 支部総会及び特別講演会：2026年4月17日 長野市
- (3) アウトリーチ活動・会員対策活動：開催時期及び場所は未定
- (4) 支部現地見学会：2026年8月～9月上旬(予定) 石川県(能登半島地震で発生した地すべり地)
- (5) 支部シンポジウム：2026年11月20日 長野市
- (6) 中部支部ニュースの発行：2027年3月31日発行
- (7) 支部幹事会：年4回開催

1 5. 関西支部

- (1) 第1回運営委員会：2026年4月3日、対面（京都大学防災研究所）＋オンライン
- (2) 総会：2026年4月20日から24日、オンライン（予定）
- (3) 若手技術支援企画：2026年5月22日、愛媛県今治市

- (4)技術研究集会：2026 年 6 月（予定）、対面（場所未定）およびオンライン
- (5)現地検討会：2026 年秋（予定）、高知県大豊町
- (6)第 2 回運営委員会：2026 年 11 月（予定）、対面（京都大学防災研究所）＋オンライン
- (7)会誌「らんどすらいど」 No. 42 発行：2027 年 1 月（予定）

1 6．九州支部

- (1)幹事会：
 - ①第一回 2026 年 4 月または 5 月、オンライン開催または福岡市
 - ②第二回 6 月予定
 - ③第三回以降は適宜開催
- (2)支部総会：2026 年 5 月中の予定、Web 開催
- (3)支部講演会：2026 年 6 月予定、2026 年沖縄大会
- (4)現地検討会（支部主催）：2026 年沖縄大会で実施予定
- (5)現場見学会：開催日未定、（一社）斜面防災対策技術協会九州支部・九州地区地すべり防止工事士会（共催）
- (6)技術検討会：2026 年 12 月、福岡県（予定）
- (8)若手会員育成・会員数増加に関する活動：
 - 1. 小中学生等へのアウトリーチ活動イベントの共催を検討中
 - 2. 日本地すべり学会，同九州支部，（一社）斜面防災対策技術協会九州支部の各イベント参加の事業として検討中
- (9)広報：支部ホームページ更新，支部幹事の各活動
- (10)災害調査：発生状況に応じて適宜実施（学会本部と連携、支部関係機関と連携）

1 7．会員数対策

- (1)シニア
 - 春期：談話会（参加者：20 名程度）
 - 秋期：関東近辺の地すべり巡検（参加者：10～15 名程度）
- (2)若手
 - ・日本地すべり学会 BIM/CIM ネットワークの運営（継続）
 - （構成数：メンバー151 名、内：オーガナイザー19 名、アドバイザー2 名）
 - ⇒オーガナイザーミーティング（3～4 程度）、オンライン会合（2 回程度）、
 - 現地・室内研修会（1 回程度）を計画
 - ⇒ネットワークの発展を検討
 - ・若手対策事業の支援（継続）
 - ⇒各支部における若手活動への財政支援
 - ・各支部の若手対策担当との連絡会の実施（継続）
 - ⇒学会活動活性化の推進
 - ・若手会員増加への取組み（継続）
 - ⇒新規ネットワークの構築を検討
 - ⇒ネットワークへの参加者等への入会推奨
- (3)その他

- ・ 周辺領域の学協会との連携を検討
- ・ 魅力的な行事等の創出による会員数増加対策の検討

18. アウトリーチ

(1) 組織

アウトリーチ検討連絡会を Web 開催して活動を行う。

(2) 本部・支部アウトリーチ活動の整理

2023 年 5 月 29 日に Web 会議で、各支部のアウトリーチ活動の実績に関する整理を行っており、同様な Web 会議を行い、2023～2025 年の実績整理、2026 年実施計画の情報共有を図る。

(3) 今後のアウトリーチ活動への取り組み

まずは比較的取り組みやすい内容について実施検討を進める。

- ・ ホームページの掲載内容の検討
- ・ SNS 等の活用による情報発信

以上